

期末考査が終了して

毎日うっとうしい空模様が続いています。梅雨明けが待たれます。

そして今日、とうとう期末考査が終わりました。たぶん、皆さんは最高の開放感に包まれていることでしょう。精一杯テスト勉強に取り組んだ人ほど、大きな満足感に浸っていることでしょう。この喜びは何ものにも替えがたいものです。学生の特権といっても良いかもしれません。この週末は大いに羽を伸ばして下さい。

部活に入っている人は夏の総合体育大会やコンクールに向け、フルパワーで練習することでしょう。各クラブの抽選会の結果もちらほら聞こえてきます。私も大いに期待しています。熱い熱い夏にして下さい。

どん底を経験することも大事

勉強であれスポーツであれ、努力してもなかなか成果が現れないものです。いくらやっても伸びないからと努力を怠る人がいます。また、「自分は大丈夫だ、何とかなる」などと過信している人がいます。そして、気がつくといつの間にか「どん底」ということになります。皆さんの中にも、その様な状況の人がきっといると思います。大事なのは自分が「どん底」にいると気づくことです。なかなか認めにくいことなのですが、今の状況を認識することが、上昇に向けた第一歩です。

まず、自分の力不足だったところを把握^{はあく}しましょう。次に、目標を定め、目標達成のための計画を立てます。どんな計画を立てればよいのか分からないという人もいるでしょうね。この前の朝礼で、日新中学校の藤山学級の話をしましたね。テスト十日前から、勉強時間 1500 時間を突破しようという時間目標を立てた取組です。あれも一つの方法です。また、〇〇の問題集をいつまでにやっ^{はあく}てしまおうというのも良いでしょう。いずれにせよ、自分の方法を考えて下さい。

目標を方針が決まったら、後は実行するのみです。「案ずるより産むが易し」の例えも

あります。きっと、自分にもできるという自信が湧いてきますよ。

図書館の利用していますか？

さて、これから夏休みにかけて、ぜひ習慣づけてほしいのが『読書』です。6月21日に図書館だよりが出されました。新しく購入した本の紹介がされています。何を読んだらいいのか分からない人も、大澤先生や図書ボランティアさんに尋ねて下さい。きっと皆さんにピッタリの本を紹介して下さいましょう。

次に、昨年度までおられた司書の関口洋子先生のおすすめ本を紹介しておきます。

関口洋子先生のおすすめ本

- 『縦模様のパジャマの少年』(ジョン・ポイン)
- 『空色勾玉』(荻原 規子)
- 『晴れた日は図書館へ行こう』(緑川 聖司)
- 『保健室ものがたり』(こんのひとみ)
- 『神様のカルテ』(夏川 草介)
- 『よろこびの歌』(宮下 奈都)
- 『セカンドウィンド』(川西 蘭)
- 『23分間の奇跡』(ジェームズ・クラベル)
- 『一瞬の風になれ』(佐藤多佳子)
- 『星をまく人』(キャサリン・パターソン)
- 『ヘヴン』 川上 未映子
- 『僕の明日を照らして』(瀬尾 まいこ)
- 『マリオネットデイズ』(篠原 まり)
- 『ファミリーツリー』(小川 糸)
- 『夜のピクニック』(恩田 陸)
- 『きみの友だち』(重松 清)

ある国語の先生のおすすめ本

- 『字のないはがき』(向田 邦子)
- 『少年の日の思い出』(ヘルマン・ヘッセ)
- 『山月記』(中島 敦)
- 『富岳百景』(太宰 治)
- 『蜜柑』(芥川 龍之介)
- 『セメント樽の中の手紙』(葉山 嘉樹)
- 『黒い雨』(井伏 鱒二)
- 『こころ』(夏目 漱石)
- 『羅生門』(芥川 龍之介)